

ことになった。その他、提出資料の一部、修正追加などがあったが、大会に向けてさらに検討して行くこととした。

#### 8. その他

- 1) 評議員会で頂いたご意見を「天気」に紹介していかかとの発議が有り議論の結果、各評議員に

対して総合計画担当理事から「天気」に原稿をお願いすることとした。

- 2) 会計担当理事から、経理事務の現状説明と当面の対策について説明が行われた。
- 3) 若手研究者の研究会を講演企画委員会の担当位置づけて助成して行くこととした。

## 第14回極域気水圏シンポジウムのお知らせ

南極域では、現在第32次観測隊により「南極域における気候変動に関する総合研究(ACR)」の最終年次が実施されており、第33次からは「氷床ドーム深層掘削観測計画」が始まります。また北極域においても当研究所に北極圏環境研究センターが設立され、海水研究を中心に観測がなされようとしています。また国内でも氷床コアの分析や衛星データの解析、オゾンホールや氷床変動の研究が続けられております。つきましては、極域における気象学、雪氷学、海洋学に関連する研究成果と今後の研究の展望について議論すべく、下記によりシンポジウ

ムを開催致します。ふるって御参加ください。

#### 記

日 時：1991年7月9日(火)、10日(水)

会 場：国立極地研究所、講堂

発表申込締切：5月8日

連絡先：国立極地研究所 気水圏シンポジウム係

〒173 東京都板橋区加賀1-9-10

電話 03-3962-4711

Fax 03-3962-5719

編集後記：つい最近引越しました。予報課に3年いる間に、我が家の住所は4つめです。引越当日はよく晴れて、数日前の週間予報が外れてよかったと心から思っています。

引越しに限らず、人々の天気予報への関心は強くなる一方で、時間・空間ともにきめ細かく、正確で、できるだけ先の長い予報が求められています。「高度情報化社会」とでもいうのでしょうか、気象情報もその情報の一つである以上、時代の雑勢には抗し難いものがあります。

人々がなぜかくも天気に敏感になってしまったのでしょうか。昔なら「今日は雨だから、仕事は休みたい！」といえた江戸の町も、今や東京人ばかりが眠尻つり上げ

て24時間働き続ける、喧噪のるつぼ。そんな中でわずかに見つけた余暇は何にもかえがたいものなので、たとえ海が大荒れでもボートは出すし、雷に打たれてもゴルフを続けます。何も、都会人に限ったことでないですが。

天気には敏感でも、現象には鈍感になってしまった人々のニーズにどう対応したらいいのでしょうか。いや、そんなものが果してニーズと呼べるものかどうか。「情報が情報を生む」といい、情報を作り出すために働いて、そのために自らの情報の多さに流され続ける、あわれな「情報消費バチ」の姿を見る思いがします。

私は、「雨が降ったら雨が降ったと書いておく」ことにしましょう。(II)